

岩国基地周辺における令和元年度の航空機騒音の状況

令和 2 年 4 月
山口県基地関係県市町連絡協議会

平成30年3月の空母艦載機移駐完了後、2年目の岩国基地周辺の航空機騒音の状況を取りまとめた。

1 概況

【月別W値の推移】

- 令和元年度は、平成30年度（移駐完了後初年度）と同様に4月と5月にW値が高くなったことに加え、9月及び11～2月もW値が高くなった。
 - ・ 4月と5月は、FCLP（空母艦載機着陸訓練）前後の訓練やCQ（空母着艦資格取得訓練）実施等の影響によりW値は高い値となった。
 - ・ 9月には年内2回目のCQが実施され、実施前に行われた訓練やCQ実施の影響により、W値は高くなった。
 - ・ 10月末に艦載機が岩国に帰還した後、その運用の影響により、11月から2月にかけてのW値は4月や5月とほぼ同じレベルの高い値を記録した。

【過去の測定値等との比較】

- 前年度（平成30年度）との比較
 - ・ 艦載機の岩国での滞在期間が長いことや、CQが2回実施されたことなどから、平成30年度と比べ、7割以上の測定地点でW値が増加した。
 - ・ 前年と異なり2回目のCQが9月に実施されたことや、前年よりも1か月早い10月末に艦載機が帰還したことなどの影響により、9月から1月までのW値の増加地点が多くなった。
 - ・ 地域別にみると、基地の西側・南東側などの測定地点のW値が減少する一方、基地の北側・北東側の飛行ルート近辺で増加した。
- 移駐開始前（平成24～28年度の平均）との比較
 - ・ 約8割の測定地点（23地点中18地点）でW値が増加しており、中でも基地滑走路近くの西側・北西側で増加した。 ※H30年度の状況：25地点中19地点で増加
- 沖合移設前（平成17～21年度の平均）との比較
 - ・ 9割の測定地点（10地点中9地点）でW値が減少した。
※沖合移設による新滑走路の運用開始：H22年5月
※H30年度の状況：12地点中10地点で減少
- 騒音予測コンターとの比較
 - ・ 約9割の測定地点（26地点中23地点）で騒音予測コンターを下回っている。
※H30年度の状況：28地点中26地点で減少

【移駐判断時の検証結果との比較】

- 令和元年度の年間W値は、移駐の判断基準としていた沖合移設前のW値と比べると、9割の測定地点（10地点中9地点）で下回るとともに、騒音予測コンターのW値と比べても、約9割の地点（26地点中23地点）で下回っており、当初の予測の範囲内であることを確認した。

《米軍機の運用等の状況》

月日	主な運用、地元への影響等
4月～5月	FCLP前の訓練実施（岩国基地周辺で実施） →騒音の増大（8割の地点で月別最高値を記録） →多数の苦情（岩国市 約27件/日）
5月9日～18日	FCLP（硫黄島で実施）
5月23日～27日	CQ（九州沖で実施） →九州沖への往復に伴う夜間離着陸等による騒音の発生 →多数の苦情（岩国市：5日間165件）
5月28日～8月23日	空母出港に伴い艦載機が岩国を離れる →騒音の減少 →苦情の減少（岩国市：約10件/日）
9月15日～18日	CQ（九州沖で実施） →九州沖への往復に伴う夜間離着陸等による騒音の発生 →多数の苦情（岩国市：4日間88件）
9月19日～10月27日	空母出港に伴い艦載機が岩国を離れる →騒音の減少 →苦情の減少（岩国市：約11件/日）
10月28日～（現在）	艦載機が岩国に帰還（滞在中）

《空母の横須賀入港状況（艦載機の岩国滞在状況）》

令和元年度の空母の横須賀入港日数は221日で、前年度や過去10年間の平均より多い。

区分	令和元年度	平成30年度	過去10年平均
入港日数	221日	189日	203日

《CQの実施状況》

○1回目（5月23日～27日）

	5/23(木)	5/24(金)	5/25(土)	5/26(日)	5/27(月)
最終離着陸時刻	22:02 着陸	23:25 着陸	翌1:25 着陸	23:51 離陸	20:00以降 離着陸なし
うち時間外運用※ の有無	なし	着陸2機	離陸3機 着陸12機	離陸3機	なし
時間外運用※：計20機					
岩国市への苦情 件数(時間外運用 に関するもの)	15件 (0件)	19件 (1件)	56件 (19件)	55件 (13件)	20件 (0件)

○2回目（9月15日～18日）

	9/15(日)	9/16(月祝)	9/17(火)	9/18(水)
最終離着陸時刻	20:40 着陸	20:55 着陸	22:54 着陸	22:34 着陸
うち時間外運用※ の有無	時間外運用※は確認されず			
岩国市への 苦情件数	23件	15件	30件	20件

※時間外運用＝滑走路運用時間（6:30～23:00）外の離着陸

2 航空機騒音の指標・観測体制

○ 騒音の状況については、航空機騒音の総合的な指標である「W値」により把握、比較を行った。

○ 基地周辺地域においては、国、県、岩国市が設置した騒音測定器（32地点）により、測定を行っているが、新設・移設により各時期の測定地点数は異なっており、令和元年度の測定値（30地点※）と比較可能な地点数は以下のとおり。

※32地点中2地点（いずれも国設置）は令和元年度途中で移設

比較対象		比較可能 地点数	うち県内
過去測定値 との比較	前年度（平成30年度）	30	25
	移駐開始前5年平均（平成24～28年度）	23	18
	沖合移設前5年平均（平成17～21年度）	10	9
移駐前に提示された騒音予測（騒音予測コンター）		26	21

3 航空機騒音の状況

（1）月別W値の推移

○ 各測定地点（30地点）における月別W値について、令和元年度に各地点での年間の最高値を示した月は、5月が16地点で最も多いが、4月は6地点、11月～2月も6地点で月別最高値を記録しており、4月・5月及び11月～2月のW値が高くなっている。

○ 6月、3月には、それぞれ全体の約4割の地点（12地点、13地点）において月別最低値を記録している。

《月別最高値の地点数（令和元年度）》

（単位：地点）

	4月	5月	6月	7～ 10月	11～2月	3月
月別最高値の測定地点数 （全30地点）	<u>7</u>	<u>16</u>	0	1	<u>6</u>	1
うち県内（25地点）	7	14	0	0	4	1
主な地点	周防大島町三蒲 72.2W 由宇町神東 71.9W	旭町77.1W 川口町75.9W 由宇町72.3W 三笠町71.7W	—	—	尾津町78.6W （12月） 三笠町71.7W （11月※5月と同値）	周防大島 町油田 49.2W

《測定地点の月別・年間W値の騒音程度（令和元年度）》

（単位：地点）

各地点の月別・年間W値について、5 W幅の各区分に該当する地点数を集計した。

W値	月 別												年間
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
75～	2	3	0	0	0	0	0	2	2	2	1	0	1
70～74.9	7	6	0	0	0	3	2	3	4	5	4	0	3
65～69.9	6	7	2	6	4	5	6	7	6	5	5	5	7
60～64.9	6	5	6	6	7	8	6	7	8	7	8	5	6
～59.9	9	9	22	18	19	13	16	11	10	11	12	20	13

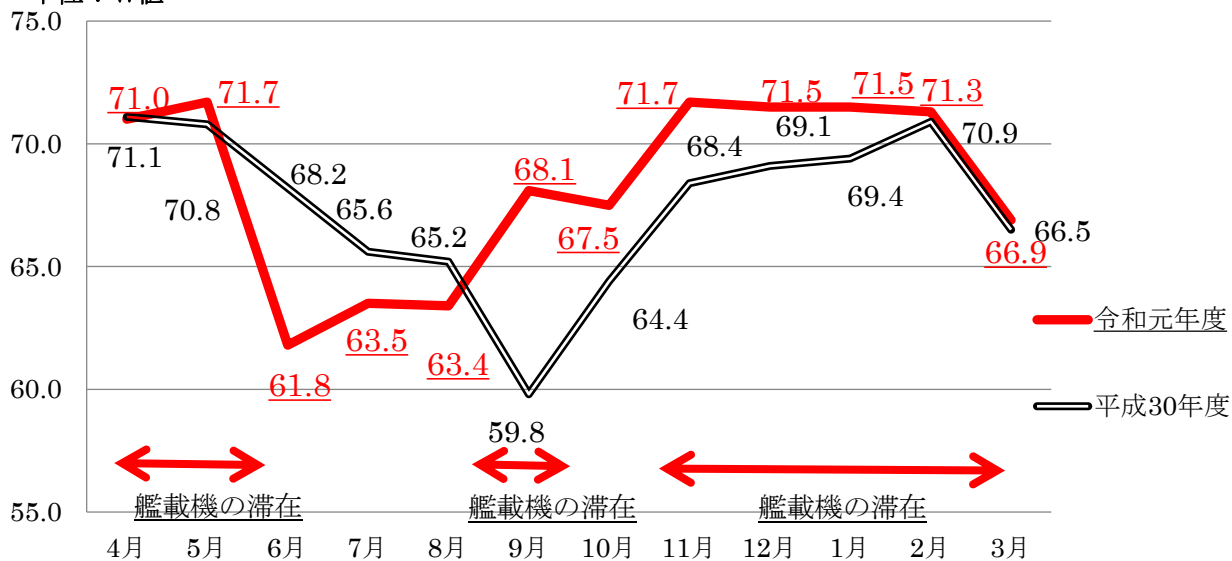
※ 75 W以上…航空機騒音防止法による第1種区域（62 Lden）に相当。

※ 網掛けは該当地点なし。

※ 9月は1地点が欠測。

《月別W値の推移の例：岩国市三笠町》

単位：W値



(2) 過去の測定値との比較

① 前年度（平成 30 年度）との比較 7 割以上の地点で増加

測定地点(全 30 地点)	前年度（平成 30 年度）W 値との比較結果
岩国市、柳井市、周防大島町、和木町等	令和元年度の年間 W 値は、 <u>比較可能な 30 地点中 22 地点で増加</u> した。

《前年度と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名（年間 W 値の増減幅）
増加	・ 基地北側・北東側（飛行ルート近辺） 大竹市サントピア（+ 2. 9）、廿日市市宮島（+ 3. 2）
減少	・ 基地西側 岩国市車町（▲ 2. 3） ・ " 北東側 江田島市（▲ 2. 6） ・ " 南東側 周防大島町油田（▲ 2. 0）

② 空母艦載機の移駐開始前との比較 約 8 割の地点で増加

移駐開始前 5 年平均(平成 24～28 年度)との比較

測定地点(全 23 地点)	移駐開始前 5 年平均の W 値との比較結果
岩国市、周防大島町、和木町等	令和元年度の年間 W 値は、 <u>比較可能な 23 地点のうち 18 地点で増加</u> した。

《移駐開始前 5 年平均と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名（年間 W 値の増減幅）
増加	・ 基地西側 岩国市尾津町（+ 5. 0）、旭町（+ 4. 7）、車町（+ 2. 0） ・ " 北西側 岩国市川口町（+ 4. 6）、三笠町（+ 4. 9）、新港町（+ 3. 8） ・ " 南側（飛行ルート近辺） 周防大島町三蒲（+ 2. 7）、浮島（+ 3. 7） ・ " 北東側（飛行ルート近辺） 大竹市阿多田島（+ 4. 1）、廿日市市宮島（+ 3. 5）
減少	・ " 北西側 和木町瀬田（▲ 2. 2）、大竹市サントピア（▲ 5. 0） ・ " 北東側 江田島市（▲ 3. 0）

③ 沖合移設前との比較 **9割の地点で減少**

沖合移設前5年平均(平成17～21年度)との比較

測定地点(全10地点)	沖合移設前5年平均のW値との比較結果
岩国市等	令和元年度の年間W値は、 <u>比較可能な10地点のうち9地点で減少</u> した。

《沖合移設前5年平均と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名(年間W値の増減幅)
増加	・ 基地北東側(飛行ルート近辺) 大竹市阿多田島(+5.0)
減少	・ 基地西側 岩国市車町(▲9.5)、旭町(▲4.5)、尾津町(▲3.5)、川口町(▲3.1) ・ 〃 南西側 岩国市由宇町千鳥が丘(▲8.8)、由宇町民家(▲4.5)

(3) 航空機騒音予測コンターとの比較 **約9割の地点で予測を下回る**

測定地点(全26地点)	航空機騒音予測コンターW値との比較結果
岩国市、柳井市、周防大島町、和木町等	令和元年度の年間W値は、 <u>比較可能な26地点のうち23地点において予測を下回った</u> 。

《騒音予測コンターW値と大きな差があった地点》

区分	測定地点名(年間W値の差)
予測を上回る	・ 基地北側・北東側(飛行ルート近辺) 廿日市宮島(+9)、八坂公園(+4)
予測を下回る	・ 基地西側 岩国市車町(▲11) ・ 〃 北西側 和木町瀬田(▲21)、岩国市装束町(▲11)、大竹市サントピア(▲15) ・ 〃 北東側 江田島市(▲13) 等

4 航空機騒音への対応

空母艦載機移駐後の状況を踏まえた騒音対策については、平成30年度の騒音の検証結果を踏まえ、国に対し、昨年6月に特別要望を、8月には県市町連絡協議会要望を行ったところであり、引き続き、移駐後の実態把握に努めるとともに、国や米側において、要望した取組が進められるよう働きかけていく。

《特別要望（令和元年6月）の内容（抜粋）》

◇空母艦載機移駐後の状況を踏まえた騒音対策の推進

- 飛行運用に係る騒音軽減措置の実施
 - ・ FCLPの直前に行われる訓練のような集中的な飛行訓練について、岩国基地周辺での実施の緩和や訓練場所の分散など、騒音軽減措置の実施
 - ・ CQ実施時において、滑走路の時間外運用や夜間の離着陸を可能な限り控えるなど、運用時間帯への配慮
 - ・ 航空機の飛行方法等に関する岩国日米協議会の確認事項の遵守
- 住民の不安解消に向けた措置の実施
 - ・ 住民生活への影響が大きい訓練の事前通知や、空母艦載機の滞在状況等に関する十分な情報提供
 - ・ FCLPの予備施設指定からの除外
 - ・ FCLPの恒常的な訓練施設の早期整備
- 国による騒音対策の拡充
 - ・ 騒音測定器の増設など、移駐後の騒音状況の更なる実態把握
 - ・ 住宅防音工事の対象拡大など地域の実情に即した防音対策
 - （・ 第1種区域等の対象区域の拡大、事務所・店舗等への補助対象施設の拡大
 - ・ 年間W値だけでなく、空母艦載機滞在時の騒音の状況に対応した第1種区域の見直し 等
）

《県市町連絡協議会要望（令和元年8月）の内容（抜粋）》

I 騒音対策の強化

- 1 岩国基地における航空機騒音等の軽減
 - 飛行運用に係る騒音軽減措置の実施（集中的な飛行訓練の実施の緩和など）
 - FCLPの禁止（岩国基地の予備施設指定からの除外など）
 - 飛行実態等に関する情報提供等（住民生活への影響が大きい訓練の事前通知など）
- 2 住宅防音工事等、騒音対策の充実
 - 住宅防音工事対象の拡充（第1種区域の見直しにおける艦載機滞在時の騒音状況の反映）